



環境報告書2011

東港金属株式会社

ごあいさつ

循環型社会形成に向けた都市型総合リサイクラーとして 今こそ資源の有効利用を

平成 23 年 3 月 11 日に東日本を突然襲った大震災。巨大地震、大津波とそれに伴う福島原発事故。いずれも日本中に未曾有の大打撃を与えました。

被災により亡くなられた皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。被災地が、そして被災者の皆様が深い悲しみの中から立ち上がり、復旧・復興へ向けて力を合わせておられる中、東港金属株式会社も義援金をお送りし、また天童支店では、交通網の寸断と燃料が手配できず材料不足に陥った半導体製造装置メーカー様などへ、アルミの板材や棒、伸銅品等を自社のトラックで輸送を続け、少しでもお役にたてたことを嬉しく思っております。今後とも環境事業の一翼を担う会社として、できる限りのお手伝いをしてゆく覚悟しております。

被災地が瓦礫等の震災廃棄物に埋まったままで日本の再生は考えられません。一日でも早い処理と、そして復興を、それぞれの立場と協力で遂げねばならないと思っております。

当社はお客様をはじめ多くのステークホルダーの皆様から支えられ、創業 109 年という歴史を刻むことが出来ました。心から御礼申し上げます。

また当社は、事業そのものが循環型社会形成に寄与できることを誇りとし、環境方針の重点項目にも取扱商品である産業廃棄物及び金属スクラップ等という大切な資源の入荷量を拡大させることを掲げております。今期は社内処理設備の大きな変更はありませんでしたが、処理工程のチェックと手順の見直し等、無理・無駄を省く改善を重ね、「捨てることは勿体ない、少しでも資源化しよう」の心で取り組みをした結果、お預かりした資源のリサイクル率を一步向上させることが出来ました。その達成に向けては、環境マネジメントシステム及び情報セキュリティシステムの各体制を軸として、事業活動を推進する上でのリスク改善を図っております。

温暖化の波は、世界の各地で集中豪雨、洪水、寒波、猛暑などの災害をもたらし、それは遠い他国のことではなく、確実に地球上のあらゆる国に負の影響が波及しており、小さな部品一つが供給不足のために世界経済が麻痺することを目の当たりにする毎日です。

東港金属株式会社は、失われていく地上の資源を少しでも有効利用し、循環型社会形成に寄与できる企業となるべく、排出事業者様、行政各位、再生事業者様そして最終処分場の皆様と協力し、産業廃棄物、金属スクラップ等の中間処理を担う、都市型総合リサイクラーとしての努力を続けて参ります。



代表取締役
President

福田 隆
Takashi Fukuda

経営理念

お客様のお役に立つ、世界最高の総合原料リサイクルを追及し、
お客様と共に会社・従業員が発展繁栄する

【情熱・熱意・執念】

すなわち「熱い気持ちで仕事に打ち込み、目標達成までやり遂げる」ことを基本として、何事も「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」という実践をしていきます

東港金属株式会社は 創業109年を迎えました。

環境への負荷が少なく
信頼性の高い中間処理を実施して
循環型社会形成に貢献してまいります

環境報告書対象組織

この環境報告書は、
東港金属株式会社(本社・本社工場、千葉工場、東京事務所、
天童支店)と、協力会社トライマテリアル株式会社の運輸部
門を範囲としました。

対象期間

当社の第66期(2010年7月～2011年6月)をまとめたも
のです。

報告内容には一部第67期を含みます

準拠、参考ガイドライン

この環境報告書は
環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考にし
て作成いたしました。

発行 2011年12月

編集方針

東港金属株式会社は、当社の環境に関する考え方と取組
み姿勢を中心とした業務内容そのままを、定期的に報告する
ことにより、ステークホルダーの皆様の良きリサイクルパー
トナーとして、事業活動の透明性、信頼性を評価、ご理解いた
だきたく、環境報告書を作成いたしております。お気づきに
なりましたことなど、ご指摘ご指導賜りたくお願い申し上げ
ます。

本報告書には2010年11月に株式会社メタルポートよ
り譲り受け、非鉄金属製品の販売を行なう天童支店の紹介を
記載いたしました。

お問い合わせ先

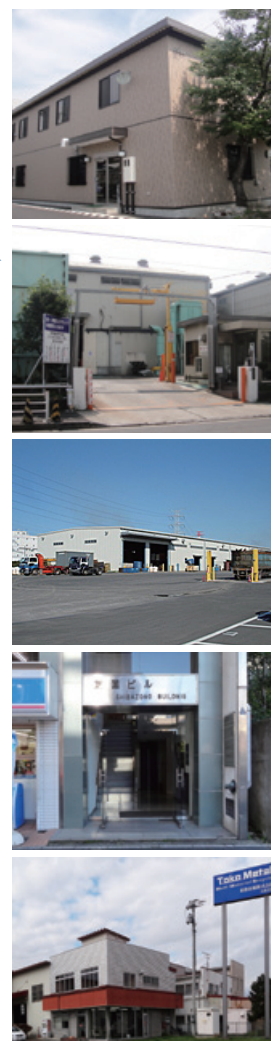
東港金属株式会社 経営企画室 〒105-0014 東京都港区芝2-7-2 芝園ビル4F
TEL:03-5730-0880(代表) FAX:03-5730-0440 Eメール:info@tokometal.co.jp

ホームページ

<http://www.tokometal.co.jp/>

環境報告書

2007年 <http://www.tokometal.co.jp/ems-isms/env-report/2007.pdf>
2008年 <http://www.tokometal.co.jp/ems-isms/env-report/2008.pdf>
2009年 <http://www.tokometal.co.jp/ems-isms/env-report/2009.pdf>
2010年 <http://www.tokometal.co.jp/ems-isms/env-report/2010.pdf>



目次

ごあいさつ	1
東港金属株式会社について	3
沿革	4
環境方針	5
事業活動における環境負荷の全体像	6
中期環境保全計画(負荷低減への取り組み)	7
マネジメント体制(環境&情報セキュリティ)	9
リサイクルフロー(本社工場&千葉工場)	11
天童支店の紹介	14
環境への取り組み	15
教育・コミュニケーション	18
協力会社の活動	19
法的及びその他の要求事項と取り組み	21
ガイドライン対照表	22

東港金属株式会社について



■会社概要

社 名 東港金属株式会社 Toko Metal Co.Ltd
 代 表 者 代表取締役社長 福田 隆
 創 立 1902年(明治35年)7月
 資 本 金 10,000万円
 従業員数 86名(2011年6月末日)
 年 商 66億円(2011年6月期)
 事 業 所 本社、本社工場、千葉工場、東京事務所、天童支店
 協力会社 トライマテリアル株式会社

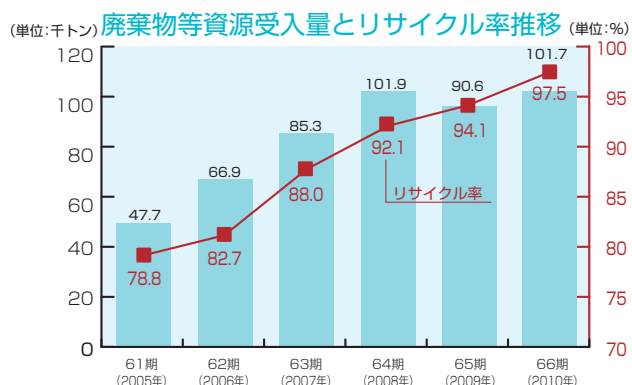
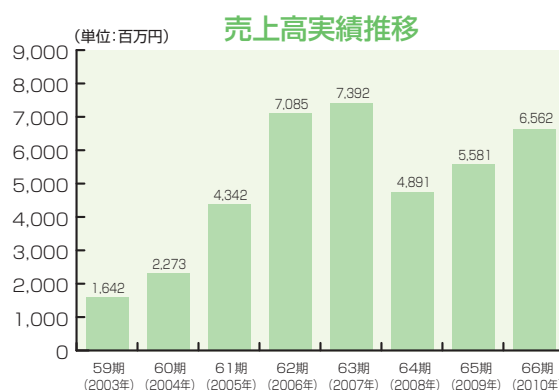
■許可・認定

- * 古物商
- * 産業廃棄物中間処理許可
 【東京都 第13-20-018874号】
 【千葉県 第01220018874号】
- * 産業廃棄物収集運搬及び積替・保管許可
 【東京都第13-10-018874号】
- * 産業廃棄物収集運搬許可
 神奈川県、埼玉県、千葉県、静岡県、栃木県、茨城県、
 岩手県、郡山市
- * 東京都 産廃エキスパート認定
- * 第1種フロン類回収業登録
- * ISO27001認証 本社・本社工場、千葉工場、東京事務所
- * ISO14001認証 本社・本社工場、千葉工場、
 トライマテリアル(株)本社営業所

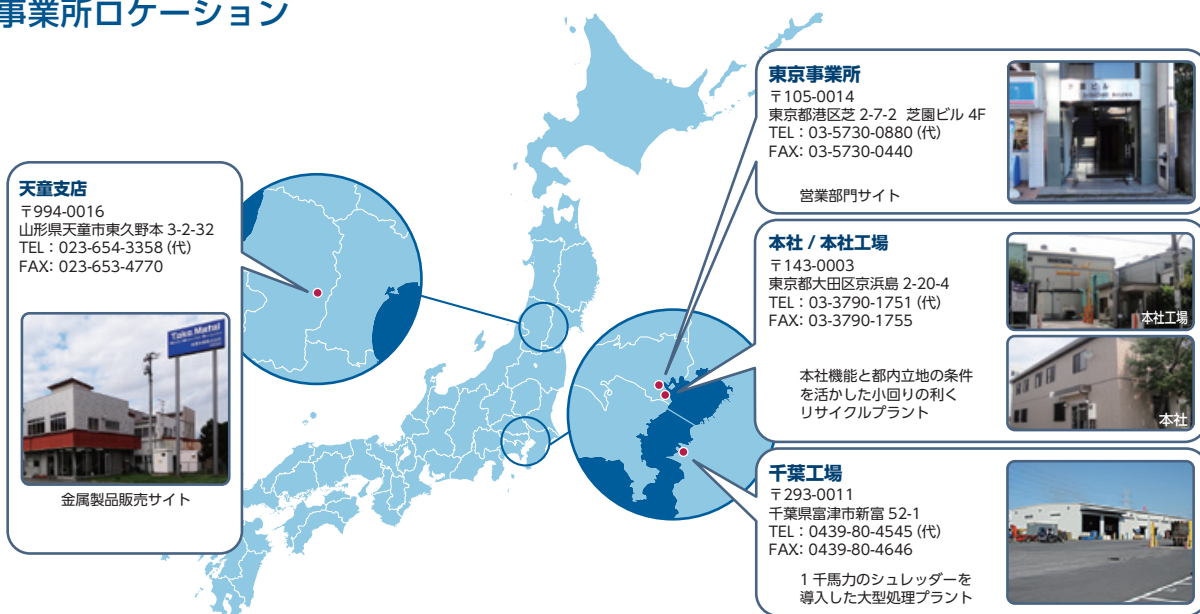
■事業概要

- * 金属スクラップ全般に関する業務(国内/輸出入)
- * プラスチックの各種リサイクル
- * 産業廃棄物の収集、運搬及び中間処理業、リサイクル
- * その他

■売上・受入れ量・リサイクル率の実績



■事業所ロケーション



■ 沿革

1902年(明治35年)	創業者福田勝西が、東京市神田に伸銅品と非鉄金属地金の問屋を開業、終戦後、店を芝金杉に移す
1947年(昭和22年)	会社組織にし、製品の問屋業を株式会社福田地銅店が担い地金の問屋業を東港金属株式会社が扱う事となった
1960年(昭和35年)	東京精錬株式会社を設立、銅合金の精錬及びインゴット製造を行なう
1978年(昭和53年)	栗山鑄造株式会社及び株式会社アイアイデーの両社を合併し、東京精錬株式会社の社名を東京銅基合金工業株式会社と商号変更した
1994年(平成 6 年)	産業廃棄物収集運搬業の許可取得 産業廃棄物中間処理業の許可取得
1997年(平成 9 年)	精錬部門と営業部門を一体化し、東港金属株式会社が東京銅基合金工業株式会社を吸収合併し、東港金属株式会社となる
2001年(平成13年)	家電リサイクル法 指定引取場所開設
2002年(平成14年)	東京都とエコトライ協定を締結
2003年(平成15年)	本社第二ヤードを開設
2006年(平成18年)	EMS(ISO14001)認証取得
2007年(平成19年)	東京都港区芝に東京事務所を開設し、営業部門及び事務部門の一部を移転する
2007年(平成19年)	千葉県富津市に千葉工場を開設
2008年(平成20年)	本社第三ヤードを開設
2009年(平成21年)	千葉工場が産業廃棄物中間処理の許可取得 本社・本社工場、千葉工場、東京事務所で、ISMS(ISO27001)を認証取得 千葉工場をEMS(ISO14001)認証範囲に拡大登録
2010年(平成22年)	東京都 産廃エキスパートの認定取得 本社事務所を新事務棟に移転 本社工場に産廃選別ライン導入 非鉄金属製品の加工販売を行なう株式会社メタルポートの天童支店を譲り受け、東港金属天童支店として、山形県天童市に開設 家電リサイクル法 指定引取場所を閉鎖

環境方針



東港金属株式会社は、資源循環型社会の一翼を担う金属加工処理業ならびに産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業等の事業を通じて環境負荷の少ないリサイクルに正面から取り組み、社会に貢献できる企業を目指し、従業員が一丸となり環境保全対策を実施し、地球環境保全のために尽くします。

1. 当社の事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染の予防に努めるとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
2. 当社の環境側面に関係して環境保全水準の向上を図るために自主基準を設け、決めた要求事項を順守します。
3. 当社が行う事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響の中で、以下の項目について重点テーマとして改善活動を推進します。

重点テーマ

- (1) 取扱商品の入荷量を拡大することにより、資源のリサイクル率向上を目指し天然資源の枯渇の抑制に貢献するとともに、最終処分量の削減に努めます。
- (2) 千葉工場のシュレッダー業務の効率化を図り、処理量拡大を図ります。
- (3) 各種車輛、重機等に使用する燃料の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇の抑制に努めます。
- (4) 工場内のプラント設備、事務所の照明・空調等に使用する電力使用量の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇抑制に努めます。
- (5) 資源の有効活用のため、コピー用紙使用量の削減に努めます。

2010年7月1日
東港金属株式会社
代表取締役 福田 隆



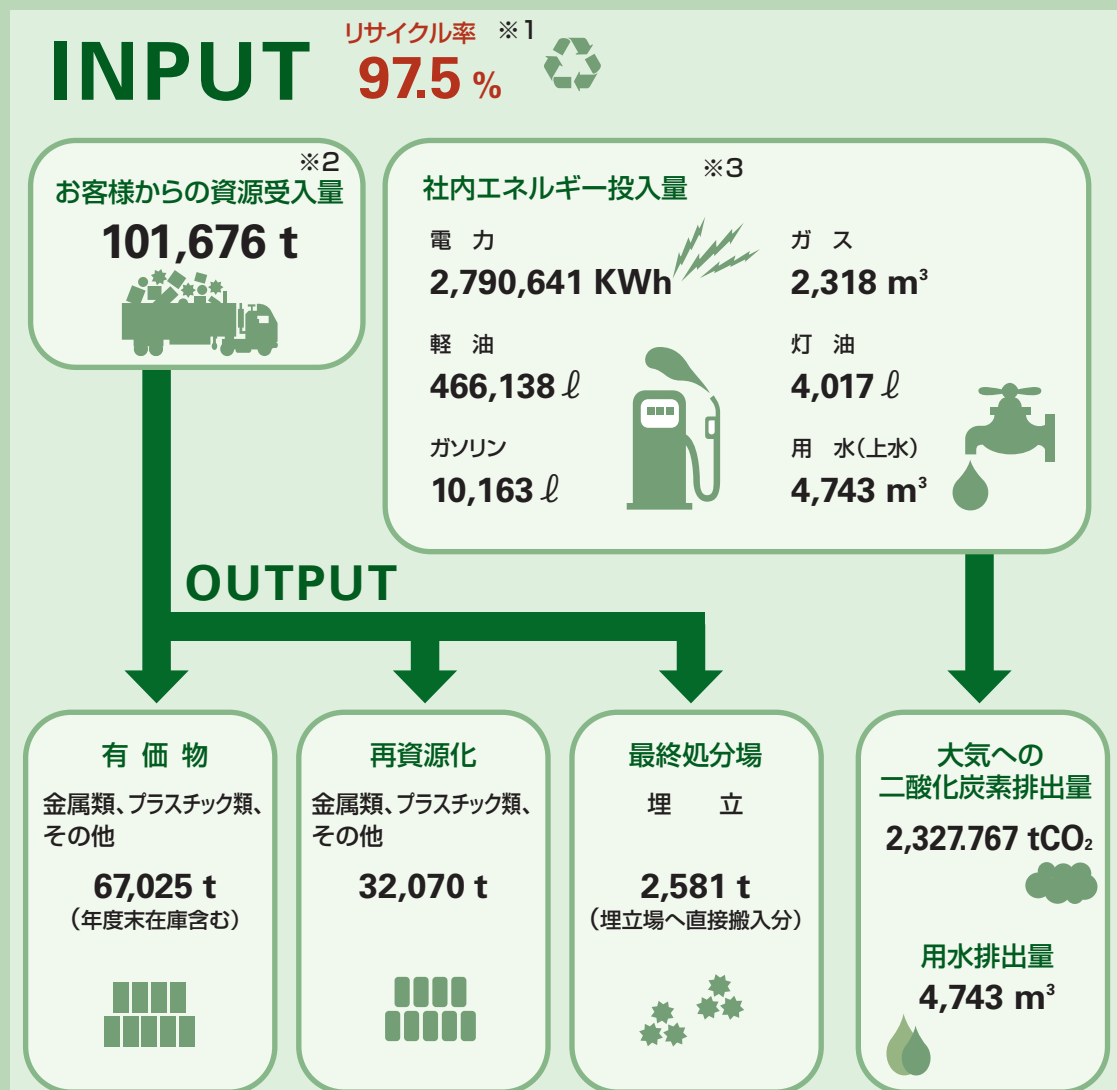
事業活動における環境負荷の全体像

マテリアルバランス報告

当事業においては、常に資源のリサイクル率や、再資源化の向上を図るための活動を行いますが、一方、活動における環境負荷として、電力や燃料などの各種エネルギーの消費に伴う温室効果ガスの排出があります。

作業効率の向上や工程改善をすることで、環境影響を低減させる努力を続けて参ります。

第66期(2010年7月～2011年6月)の主な環境負荷は下図の通りです。



二酸化炭素排出量計算根拠:

温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(平成23年4月 環境省・経済産業省発行)よりCO₂排出量(tCO₂)算出計算式を用いました。

但し、電力については「(平成22年12月27日 環境省報道発表資料)平成21年度の電気事業者別実排出係数・調整後排出係数等の公表について」を採用。用水については東京都環境局の「地球温暖化対策報告書制度」で使用されている排出係数を採用しました。

※1 リサイクル率 = $\frac{(\text{受入量} - \text{埋立量})}{\text{受入量}} \times 100\%$

※2 資源受け入れ量は、本社工場と千葉工場への受け入れ量の合計です。

※3 社内エネルギー投入量は、ISO14001適用範囲である協会社トライマテリアル株式会社の投入量を含みます。

中期環境保全計画



負荷低減への取組み

当社は、事業活動、製品、及びサービスが環境に与える影響の中で、重点テーマである省エネ・省資源、効率向上化の達成すべき目標を環境保全計画として設定しております。

このページではISO14001の適用範囲(本社、本社工場、千葉工場及びトライマテリアル株式会社本社営業所)の66期環境目標・年度環境実行計画に基づくデータを掲載いたしました。66期は前期に引き続き目標をクリアできました。

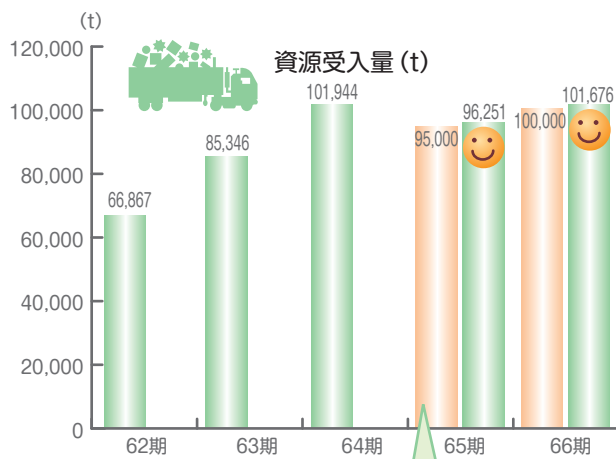
部門	66 期 目 標			結果数値	達成度
	推 進 項 目	施 策	期末目標		
本 社・ 本 社 工 場・ 千 葉 工 場	資源受入量の拡大	(1)仕入れ価格の適正化 (2)商品の在庫期間圧縮 (処理能力向上) (3)受入ヤードの整備 (処理能力向上) (4)仕入先の拡大(顧客拡大)	100,000t/年の達成	101,676t	対目標値よりも更に1.7%の拡大達成
	最終処分量の削減 リサイクル率(%)= [受入量(t)-最終処分量(t)] /受入量(t)×100	(1)サーマルリサイクル処分先の拡大(最終処分の削減) (2)選別ラインの導入 (3)客先への選別徹底の提案 (4)再生処理品の拡大	96.0%の達成	97.5%	対目標値よりも更に2.5ポイントのリサイクル率向上
	コピー用紙使用量削減 コピー用紙使用量原単位= コピー用紙購入枚数(枚)/ [製品入荷量(千t)+出荷量(千t)]	裏紙の使用徹底 不要資料の作成削減 配布資料及び配布先の適正化 メール・電子化の推進 棚卸し不用品資料の活用	1,438枚/千tの達成	1,322枚/千t	対目標値よりも更に8.1%の削減達成
ト ラ イ マ テ リ ア ル (株) ・ 本 社 工 場	燃料使用量削減(運搬車輛) 燃料使用量原単位= 燃料使用量(ℓ)/[製品入荷量(千t) +出荷量(千t)]	(1)アイドリングストップの励行 (2)アクセルの吹かし過ぎ防止 (3)効率的な積み降ろし・運搬 (4)車輛の定期点検・整備	808ℓ/千tの達成	803ℓ/千t	対目標値よりも更に0.6%の削減達成
	燃料使用量削減(重機車輛) 燃料使用量原単位= 燃料使用量(ℓ)/[製品入荷量(千t) +出荷量(千t)]	(1)アイドリングストップの励行 (2)アクセルの吹かし過ぎ防止 (3)効率的な積み降ろし・運搬 (4)車輛の定期点検・整備	1,020ℓ/千tの達成	1,019ℓ/千t	対目標値よりも更に0.1%の削減達成
千 葉 工 場	電力使用量の削減 電力使用量原単位= 電力使用量(Kmh)/投入量(t)	(1)破碎機の効率的運転投入量拡大⇔破碎機負荷に低減 (2)定期的メンテナンスの実施 (3)最適投入量の把握	57.0Kwh/tの達成	52.63kwh/千t	対目標値よりも更に7.7%の削減達成
	シュレッダー処理量の拡大 シュレッダー業務の効率化	(1)最適投入条件の設定・運用 (2)定期的メンテナンスの実施	2,100t/月平均の達成	2,451t/月平均	対目標値よりも更に16.7%の拡大達成



主な推進項目の予実績及びエネルギー投入量実績の推移

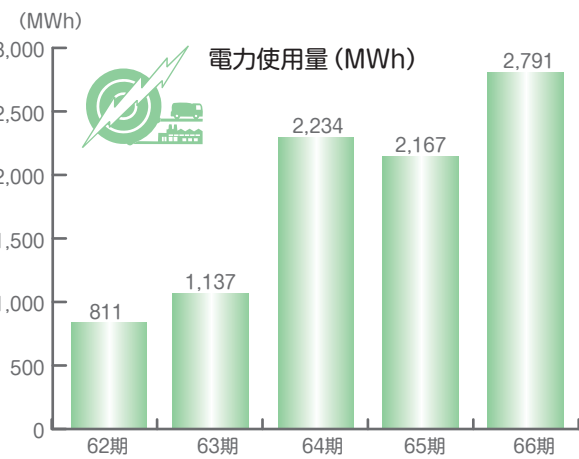
目標達成  目標  実績 

主な推進項目の予実績

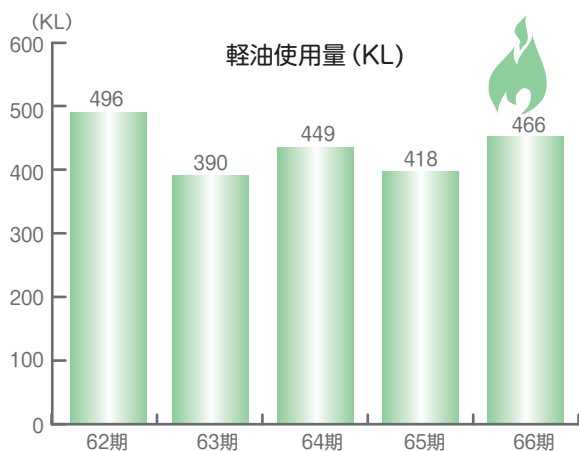
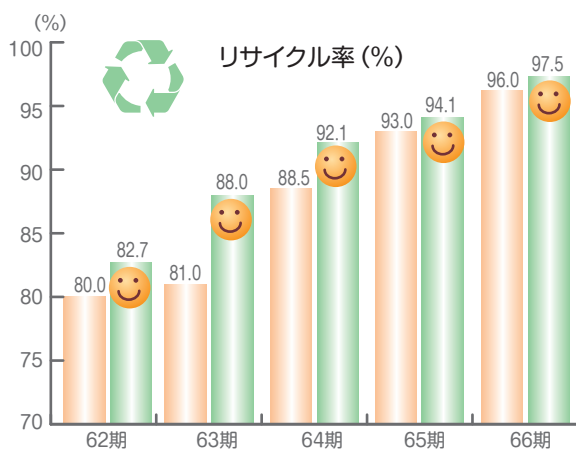


64期までは産業廃棄物を除く受入品目で目標量を設定していたが、65期からは産業廃棄物も含む全品目の総受入量で目標を設定した。このグラフは全品目の総受入量を表示しています。

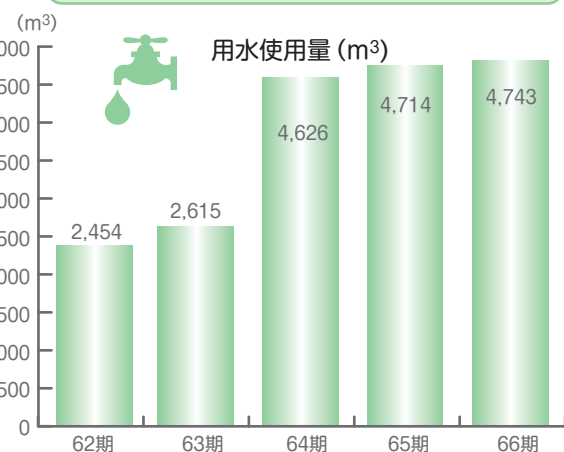
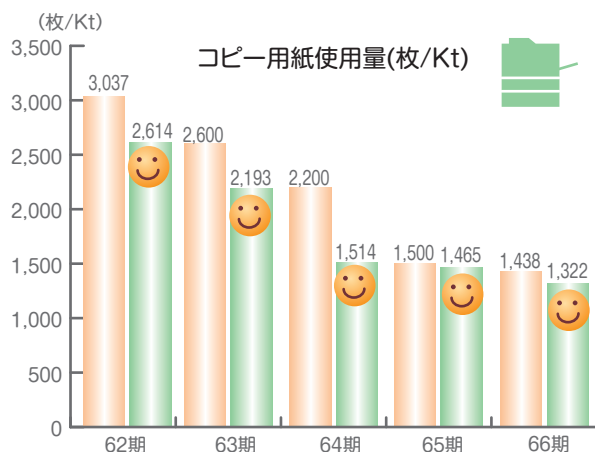
主なエネルギー投入量の実績 (全社)



66期は破砕機のリニューアル及び天童支店が加わり電力使用量は増加しました。



66期は天童支店が加わり車両用の軽油使用量が増加しました。



64期は千葉工場の稼働開始により急激に増加しました。その後は受入量の増加等に伴い増加傾向にあります。

マネジメント体制

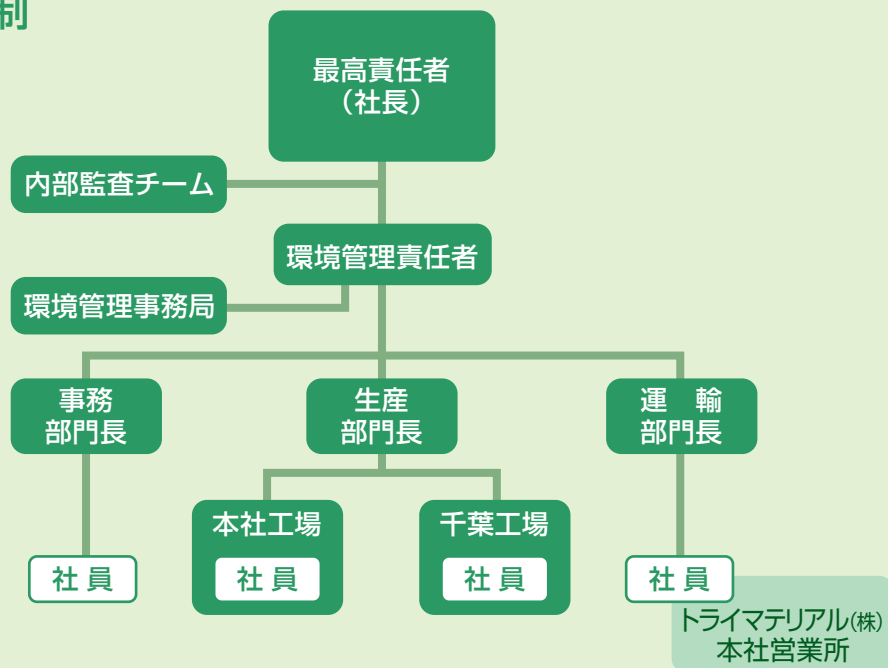
環境マネジメント体制

当社は、企業としての事業活動が環境に及ぼす影響を最小限に食い止め、改善に取り組むために、社長をトップとした環境マネジメント体制を組織し、環境マネジメントシステム ISO 14001 の認証を取得しております。

Plan-Do-Check-Act により事業活動と関連する環境法規を明確にして、確実な順守に努めており、継続的な改善を目指しています。



推進体制



環境の継続的改善を目指して 2006 年 6 月に認証取得した ISO14001 は 5 年を経過しました。

その環境方針に基づく行動指針を全従業員が常に認識し、事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面の継続的改善を図るとともに、適用可能な法的要求事項、及び自主的に受入を決めたその他の要求事項を順守するために自主基準を設け、管理し、環境保全水準の向上を図ってまいります。



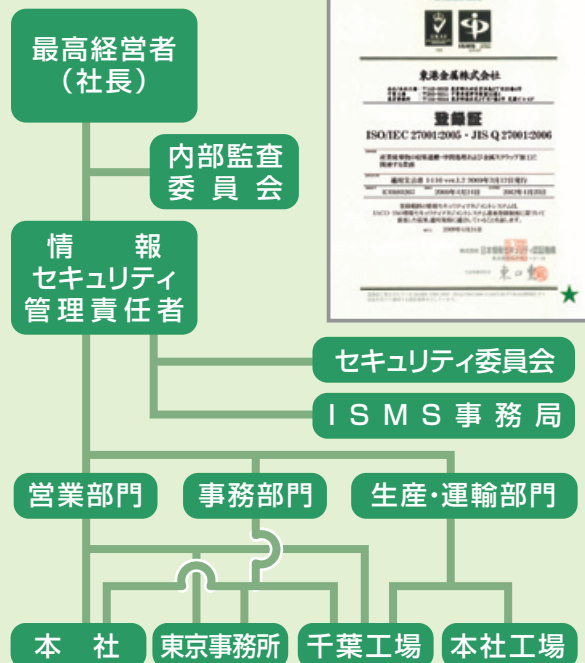
情報セキュリティマネジメント体制

当社は、2009年4月に「情報セキュリティマネジメントシステム」ISO27001の認証取得をいたしました。有効期限は2012年4月までで、本年は2年次定期サーベイランスを受け、登録継続承認をいただいております。

当社は事業を進めていく上で、顧客情報・顧客資産・従業員個人情報の保護の責務を果たすため「個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）」に対応し、情報セキュリティマネジメントシステム（以下ISMS）規格に準拠するマネジメントシステムの構築、維持の、Plan-Do-Check-Actのプロセスを通じて、保有する全ての情報資産に対してリスクを評価し、そのリスクに応じて、対策を実行しております。

社会的にも情報セキュリティの必要性がますます重要視されてきております。当社はお客様の利益と社会全体の情報セキュリティを推進することが、重要な顧客サービスであり、お客様がかけがえのないパートナーとして、安心して当社をご利用いただけるよう、従業員が一丸となってISMSを実施、推進してまいります。

推進体制



情報セキュリティ基本方針

1. 目的と活動の原則

東港金属株式会社は、金属加工処理業ならびに産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業等の事業を進めていく上で、顧客情報や処理を受託した機器の記録部の中に含まれている情報等の重要情報を保有している。

一方、事業の拡大に伴う本社事務所とヤード、他事業所、事務所等との情報伝達経路の多様化により、情報の漏洩、改ざん、センター機器や情報伝達経路の不具合による事業活動の遅滞や停止等の潜在的なリスクを有している。

情報セキュリティマネジメントシステム（以下ISMS）規格に準拠するISMSの構築、維持のPDCAプロセスを通じて、これらのリスクに対応する仕組みを確立することが当社の重要な顧客サービスとなることを認識し、従業員が一丸となりISMSを実施し、顧客及び当社の継続的な事業発展のために、ここに情報セキュリティ基本方針を制定する。

2. 法令・規程・規則

顧客情報・顧客資産・従業員個人情報の保護の責務を果たすため法的要求事項、及び自主的に受入を決めたその他の要求事項を順守、管理する。

3. ISMS 組織体制の確立

事業の変化とそれに伴うリスクの変化に対して適切に対処するために、情報セキュリティ管理責任者を任命し、その下にセキュリティ委員会とISMS事務局を設ける。

また、ISMSのPDCAプロセスが適切に機能していることを評価する内部監査組織を設置する。

情報セキュリティ管理責任者とISMS事務局は、当社のISMS全般に亘る管理、運営を行う。

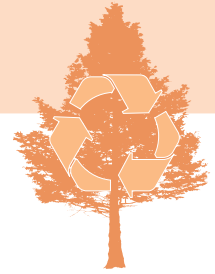
4. リスクへの対応

顧客情報と会計販売情報の機密性を最重要視する。これら情報の漏洩は当社の信頼性を著しく損ない、悪用されれば当社の事業継続に重大な影響を及ぼすと考えられる。

また、これら情報が集積しているサーバとその伝達経路の不具合は、業務遂行上の重大なリスクであり、完全性と可用性を考慮する。

なお、リスクマネジメントは、客観的に体系化され、重要なリスクを有効に見出す仕組みとして、継続的に見直しを行なえるものとする。

2008年12月1日
東港金属株式会社
代表取締役 福田 隆



リサイクルフロー

本社工場リサイクルフロー

多品目の取り扱いと徹底した選別で、出来る限り資源として循環することを目指しております。

1. 収集運搬 / 搬入

従来、種類別・マテリアル別に専門業者に振り分けて搬入していた廃棄物、混合物、有価金属などを、窓口ひとつでの受入が可能です。



平ボディ車



台貫

2. 分別 / 解体

大型廃棄物から鉄と非鉄、プラスチックまで分解・選別することができるマルチ解体機や大型磁力選別機と手作業により徹底した分解、仕分けを行います。



パソコン / OA 機器の手解体



マルチ解体機での解体

5. 適正処理

マテリアルリサイクル及びサーマルリサイクル向けの原料化を可能な限り促進し、リサイクル率の向上と適正処理を実現しております。

(例 プラスチックフレーク、プラスチック燃料、木くずチップ、銅系再生合金原料、電線ナゲット銅、再生銅原料、紙原料、カレットなど)

4. 圧縮 / 梱包

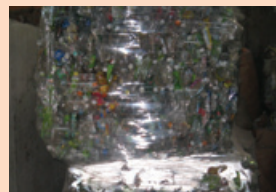
鉄、ステンレス、銅、アルミ、プラスチック、基板、その他をそれぞれ圧縮梱包していきます。



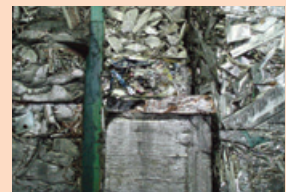
ベアラ



プレス機



再生プラ原料 (PET)



アルミ

お客様に分別をお願いしております

廃棄物と言われる物の中でも金属スクラップ類が混ざっている物は、そのまま排出する事は勿体ないことなので、少しでもお客様（排出事業者様）の負担を少なくするように分別排出をお勧めしております。

分別排出していただくことにより、お客様には益となり弊社では処理工程での分別効率の向上、設備の負荷低減とつながり、エネルギーセーブに役立っているようです。

常に「勿体ない」の心をお客様にお伝えするのも大切な仕事と思っています。



営業部 三瓶 重幸

台貫窓口での時間短縮に努めております

台貫窓口でお客様（主にドライバーの方々）の対応をしております。

お客様にとっては時間も大切な資源だと思い、少しでもお待ちいただく時間を短縮するように努めております。



営業部管理課 石田 さおり



3. 破碎

最新鋭高速切断機〔ギロチンシャー〕の導入をはじめ、複数の破碎機やジャンボプレスバレー、天井クレーンを刷新し、作業効率と処理スピードの向上を実現させ、さらに、ヤード内のレイアウトに配慮し、作業のオートメーション化を実現しました。



ギロチンシャー



破碎機

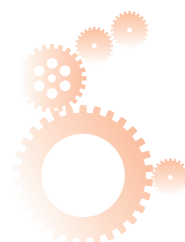
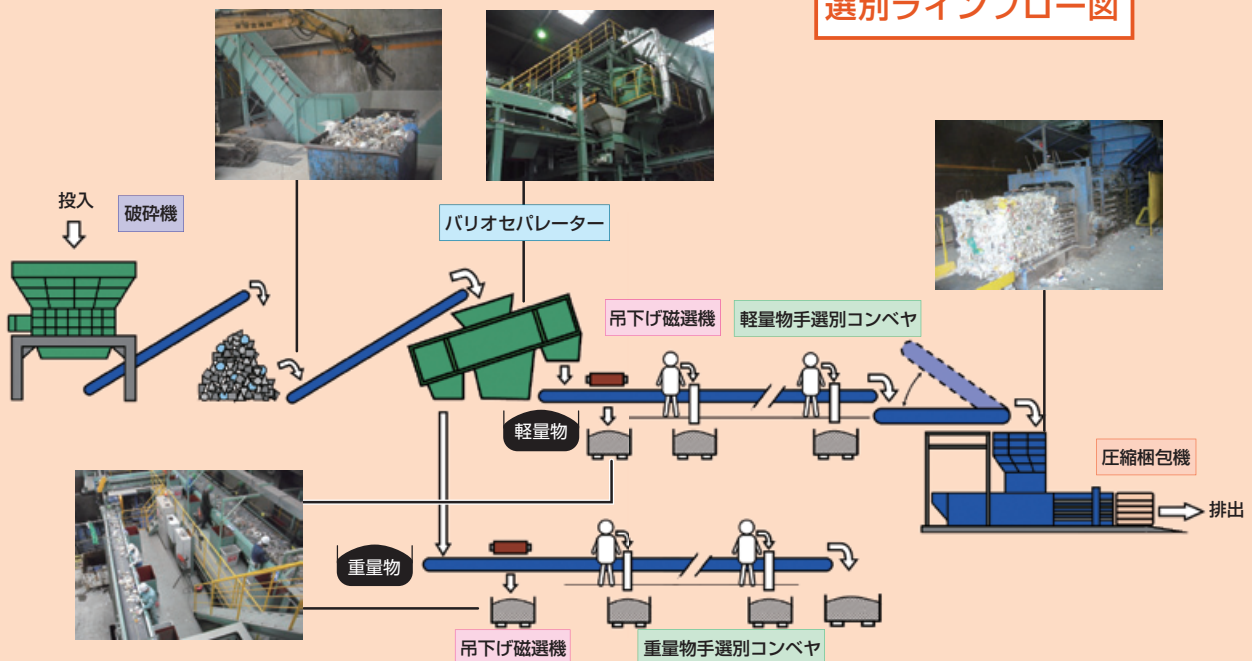
4. 選別

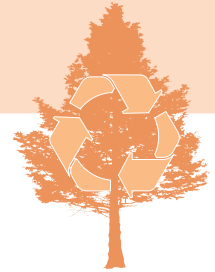
比重の違いを利用した振動型選別機と2系列の手選別コンベアーラインにより、高精度の選別を行います。



選別機

選別ラインフロー図

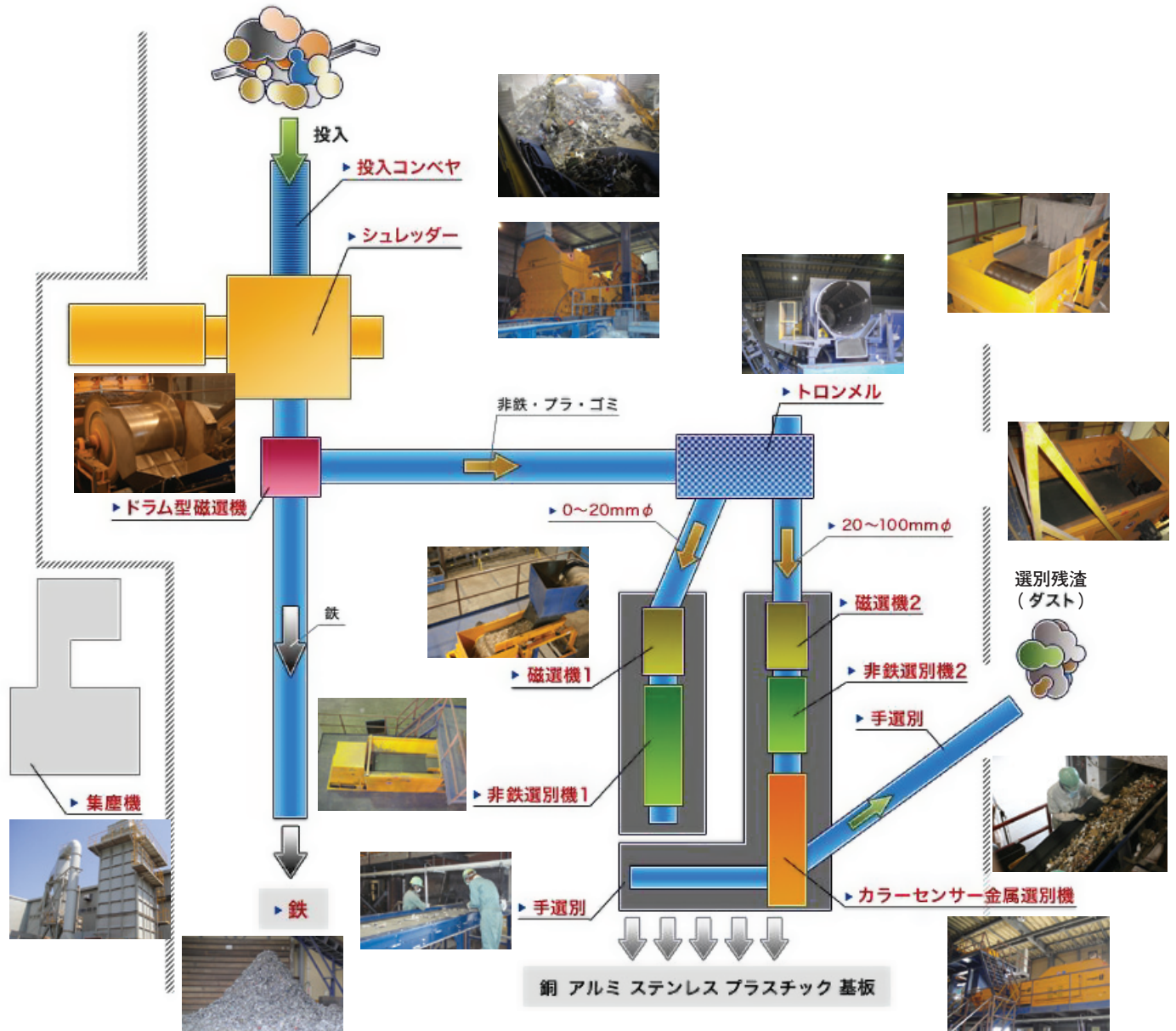




千葉工場 破碎・選別工程フロー

千葉工場のリサイクルフローでは、破碎と選別工程に最新鋭の設備を導入しております。

破碎には1千馬力のシュレッダーを導入し、シュレッダーで破碎した後は、磁選機・カラー選別機・手選別により、鉄・各非鉄・その他に選別し、後工程の圧縮梱包／適正処理の工程に移ります。



設備仕様

設備名	製作会社国名	処理能力、特性等（カタログより）
シュレッダー	ドイツ	30t/ H、千馬力の大型破碎機
トロンメル	日本	0～20mmφ、20～100mmφと100mmφ以上を分離する、円筒型の回転ふるい装置
ドラム型磁選機	ドイツ	磁力により混合物の中から鉄を分離する磁力選別機形状や取り付け方により名称が変わる
磁選機	ドイツ	
非鉄選別機	ドイツ	鉄と非鉄を分離するために渦電流を利用した選別機
カラーセンサー金属選別機	ドイツ	対象物の色を取り込み素材を特定して選別する装置
集塵機	日本	電気式と濾布式の組合せ型



天童支店の紹介

天童支店 非鉄金属材料の加工販売

2010年11月に、株式会社メタルポートより非鉄金属製品取扱いを営んでいた天童支店を譲受、従来の業務を継承して、当社天童支店として営業を開始致しました。

お客様の注文に合わせた金属製品の加工販売に当たっては切断機等の稼働設備類のエネルギー消費量をいかに削減し、効率よく生産するか等の工夫をしております。

寒冷地ですので燃料の消費量は天候に左右されますが、作業環境と、作業者の健康管理に配慮しながら、こまめに調整するようにしております。



結城支店長

新体制のもと、メンバー全員が団結して、お客様のご期待に添うよう努力しています。



天童支店メンバー



保有設備



チップソー 1600×1600 1基



バンドソー 250 1基



バンドソー 300 1基



チップソー 400×400 1基



メタルソー 1基



コンターマシン 1基

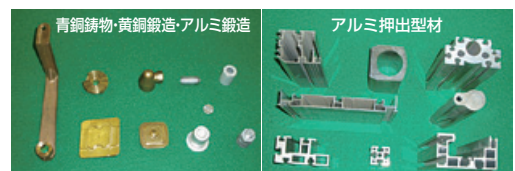
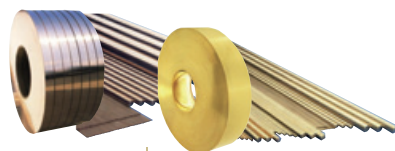


チップソー 1250×1250 1基



チップソー 1500×2000 1基

商品一覧



材料名	商品一覧
アルミニウム Aluminium	アルミニウム板・アルミニウム条・アルミニウム棒・アルミニウム型材・アルミニウム管・アルミニウムダイガスト
ステンレス Stainless Steel	ステンレス板・ステンレス条・ステンレス棒・ステンレス管
クローム銅 Chromium Copper	丸棒・角材
黄銅 Brass	黄銅板・黄銅条・黄銅丸棒・黄銅六角棒・黄銅四角棒・黄銅平角棒・黄銅線・黄銅異型・黄銅鍛造・黄銅管
銅 Copper	銅板・銅条・銅平角棒・銅丸棒・銅異型・建築用銅材料・銅管
燐青銅 Phosphor Bronze	燐青銅板・燐青銅条・燐青銅棒・燐青銅線
ベリリウム Beryllium Copper	ベリリウム板・ベリリウム条・ベリリウム棒・ベリリウム線
洋白 Nickel Silver	洋白板・洋白条・洋白棒・洋白線
青銅鋳物 Bronze Castings	丸棒・管・型物

環境への取り組み

特定フロンの回収をしています

当社は、東京都にフロン回収業者として登録をし、産業廃棄物として搬入された業務用のエアコンや冷蔵庫の中に入っている冷媒用フロンを適正に回収し、破壊処理業者に引き渡しております。大気中に放出されるとオゾン層破壊や地球温暖化などを起こす一因となるフロンを正しく処理することで、フロン回収・破壊法に対応して参ります。



5S 活動成果をあげています

職場環境の維持、作業効率向上、そして社員全体の意識向上を図ることを目的に、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動を推進中です。

具体的なアクションは、5S 委員が中心となって隔週のミーティングで現状を把握し、改善策を講じておりますが、整理整頓が習慣として根付きはじめてきました。現在は情報セキュリティの考え方に基づいて、事務所書庫内の保存書類の整理整頓をすすめており、スタッフの意識レベルは向上しています。

産廃エキスパート認定取得 （東京都の第三者評価制度）

当社は、平成 21 年 10 月に東京都が全国で初めて創設した、産業廃棄物処理業者の第三者評価制度において中間処理業と収集運搬業（積替え保管を含む）で、第 1 回産廃エキスパートの認定を取得いたしました。

この制度の趣旨を真摯に受け止め、排出事業者の皆様から信頼される業界のトップランナーとして努力してまいります。



中間処理業



収集運搬業

グリーン購入でも環境配慮をしています

社内の物品調達については、共有使用できるものや、リユースできるものの再使用をすすめ、品質や価格だけでなく、グリーン購入の考えに則した環境負荷低減に資する製品を積極的に使用することとしております。

防災訓練

安全がすべての作業に優先しますので、毎日の朝礼で意識づけをしております。

特に地震、火災等緊急時対応に備えて、本社工場、千葉工場共に初期消火活動、応急救護を含めた防災訓練を実施しています。





環境調査をしています

当社は環境方針に則り、事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染の予防に努めるため、本社工場と千葉工場で、業務に伴って発生する騒音・振動・悪臭・粉じんと、構内から排出される雨水中の含有物質を自主的に測定しております。下記に示すように今事業期の測定では自主基準値内でした。



今後とも環境保全水準の向上を図るために小さな問題点も見逃さず処置対応をして、周辺環境の保全に努めてまいります。環境調査結果概要版はホームページに公開いたしております。

平成 22 年度東港金属株式会社環境調査結果（騒音・振動・悪臭・粉じん・雨水）

調査実施機関 株式会社環境総合研究所【計量証明登録 濃度第 592 号、音第 7 号、振動 1 号】

調査期日 本社工場：2010 年 11 月 19 日 千葉工場：2010 年 11 月 22 日

調査方法：当該地域を規制する条例等の調査方法を採用（詳細はホームページを参照ください）

調査結果：適否の欄の記号は次のとおり。 ○：規制基準を満足 ×：規制基準を超過

1. 騒音レベル

調査場所	調査位置	調査時間	調査結果(騒音レベル)	適否	規制基準
本社工場	敷地境界(東)	9:30~9:40	68dB	○	70dB(参考)
千葉工場	敷地境界(南)	10:30~10:40	63dB	○	70dB

注)本社工場：工業専用地域であり、規制基準の適用はされない地域であるため、規制基準は参考。

2. 振動レベル

調査場所	調査位置	調査時間	調査結果(振動レベル)	適否	規制基準
本社工場	敷地境界(東)	9:30~9:40	47dB	○	65dB(参考)
千葉工場	敷地境界(南)	10:30~10:40	53dB	○	65dB

注)本社工場：工業専用地域であり、規制基準の適用はされない地域であるため、規制基準は参考。

3. 悪臭

調査場所	調査位置	採取時間	調査結果(臭気指数)	適否	規制基準
本社工場	敷地境界(東)	10:00	<10	○	13
	敷地境界(南)	10:05	<10	○	13
千葉工場	敷地境界(北)	10:05	<10	○	13(参考)
	敷地境界(南)	10:15	<10	○	13(参考)

注)千葉工場：富津市は臭気物質規制であり、臭気規制値はまだ規定されていないため、規制基準は参考。

4. 粉じん

調査場所	調査位置	採取時間	調査結果(総粉じん)	適否	環境基準(参考)
本社工場	敷地境界(東)	9:10~14:10	0.167mg/m ³	○	0.2mg/m ³
千葉工場	敷地境界(南)	8:25~13:25	0.123mg/m ³	○	0.2mg/m ³

注)施設から発生する粉じん濃度には規制基準は存在しないため、参考までに一般地域に適用される環境基準(浮遊粒子状物質の時間最大値0.2mg/m³)と比較した。

5. 雨水排水

本社は2010年11月19日、千葉工場は同年11月22日に「下水の水質の検定方法等に関する省令(昭和37年厚・建令1)」に基づき、下記43項目について調査を実施。全ての項目で下水道基準値を満足しておりました。

調査項目：

カドミウム、全シアン、有機磷、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、ホウ素、フッ素、全クロム、銅、亜鉛、フェノール、溶解性鉄、溶解性マンガン、BOD、SS、n-ヘキサン(鉱油)、n-ヘキサン(動植物油)、全窒素、全リン、水素イオン濃度(pH)、温度、沃素消費量、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、アンモニア性窒素



（財）日本自転車競技連盟（JCF）のオフィシャルスポンサー

当社は（財）日本自転車競技連盟（JCF）の「日本ナショナルチーム（ロード）」の全エリート選手の活動趣旨とロンドン五輪に向けたプロジェクトに協賛し、JCF とオフィシャルスポンサー協賛契約を締結いたしました。

風を切り疾走する自転車の動力は脚力エンジンです。自転車そのものの性能もレース結果に影響を与えますが、人力のみによって推進される自転車を用いて行うスポーツであることは、環境関連企業として興味深いものがあると考えています。

ここでは、当社が応援に力を入れているロードレースを営業部 溝口 仁（写真）の観戦記で紹介します。



2011・ジャパンカップサイクルードレース

10月23日（日）AM10：00 スタート

当社がスポンサーとなりました日本ナショナルチームは、今年過去最強の選手達が揃い、5名のチームで表彰台を目指しました。

レースは、宇都宮市森林公園、鶴CCの周り、平らな道から上り、下り、古賀志林道の急勾配など1周14.1kmのコースを10周（最終周回のみ10.3km）、総距離151.3kmを走るレースです。観客も今年は10万人とも言われる人達が沿道を埋め尽くしており、大声援を送って大盛り上がりでした。レースは約4時間、時速は40km～50kmは出ており、下り坂では80kmは出るとも言われているそうですが、その言葉通り私たちの席を一瞬で通り過ぎていく迫力には圧倒されてしまいました。ゴール前約3km位でナショナルチームの新城（あらしろ）選手がスパートをかけ、ゴール寸前まで1～2位を争っていましたが、残念ながら力及ばず表彰台に上がることはできませんでした。

今回初めての自転車ロードレース観戦でしたが、トップ選手達の迫力を目の当たりに体験することができ、またこのような大きな大会のスポンサーとして観戦できたことを価値あるものとし、今後の営業活動に生かしていかなければと使命感を感じております。



日本ナショナルチームのご活躍を期待するとともに、応援してまいります。

教育・コミュニケーション

環境教育

社内における従業員の環境教育をはじめとして、安全・衛生を自らが管理し、お互いに気持ちよく、安心して仕事ができるように、安全衛生委員会と、全員参加の職場安全衛生会議を定期的に行き、問題の掘り出しと対策を講じる事で皆が同じ意識を共有できるようにしています。また、労働衛生コンサルタントの北条先生にも定期的に講演を行なっていただいております。

資格取得を奨励しています（業務知識取得と安全作業のために）

従業員が其々の担当業務をこなしていく上で必要な知識や技能習得のために資格取得を奨励しております。

2011年9月15日現在

資格区分	人数	資格区分	人数	資格区分	人数
破碎・リサイクル施工技術管理士	2	安全衛生推進者	2	車両系建機	30
天上クレーン	1	地山の掘削作業主任者	2	食品衛生責任者	1
産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の許可申請に対する講習会（更新）	1	安全管理者	1	小型移動式クレーン	15
ショベルローダー	1	土止め支保工作業主任者技能講習	2	ディーゼル自動車整備 2級	1
産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会（収集運搬）	7	安全衛生特別教育規定講習	1	クレーン作業	14
危険物取扱者	5	はい作業	1	ダイオキシニンストラクター	1
PCB廃棄物の収集運搬作業従事者講習	1	安全衛生研修会	1	ガス溶接	13
救命技能認定証	4	建築高力ボルト溶接管理技術者	1	統括安全衛生責任者	1
特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会	1	運行管理者	1	アーク溶接	9
冷媒回収技術者登録	3	建築物等の鉄骨の組立て等作業主任者	1	整備管理者	1
特別管理産業廃棄物管理責任者	1	衛生管理者	1	床上操作式クレーン	3
職長教育	3	高圧ガス移動監視者講習	1	大型免許	16
特別管理産業廃棄物処理業収集運搬過程	1	防火管理者	2	高所作業車	3
低圧電気取扱	3	認定電気工事従事者	1	大型特殊	7
水質関係第一種公害防止管理者	1	産業廃棄物処理業者講習会	7	移動式クレーン	2
粉じん	2	型枠支保工の組立て等作業主任者	1	牽引	6
大気関係第一種公害防止管理者	1	産業廃棄物処理業者セミナー	2	小型車両系建機	2
酸素欠乏・硫化水素危険作業	2	コンクリート圧送施工技能士 1級	1	中型免許	57
ISO 14001 内部監査	4	フォークリスト	39	バックホーン	1
自由研削用砥石特別教育	2	ガソリン自動車整備 2級	1	機械製図作業	1
ISO 27001 内部監査	2	玉掛	31	不整地運搬車	1
第二種電気工事士	2	上級救命技師	1	教育トレーナー	1

「羅針盤」発行

産業廃棄物処理業界の相場状況及び改正された法律の内容紹介などの参考情報や東港金属のトピックスを「羅針盤」というニュース紙として毎月発行しています。この情報はそのままホームページにも掲載中です。

<http://www.tokometal.co.jp/>



MVP 表彰

当社では、その月々の作業姿勢やマナーなど担当職務に優れたメンバーを上司が推薦し、月間 MVP や年間 MVP として表彰し、各人が仕事への意欲と誇りを持てるような職場づくりを目指しております。



第66期 生産部門
年間 MVP 賞 庄子 貴裕

年間を通して、手順通りのメンテナンス、安定した業務に努め当社の業績向上に大きく貢献しました。



第66期 千葉工場
年間 MVP 賞 山口 善行

千葉工場において、常日頃より、真面目にかつ安定した業務を継続し、当社の業績向上に大きく貢献しました。



山本社長

トライマテリアル株式会社の紹介

トライマテリアル株式会社は、平成 18 年（2006 年）に創業以来、東港金属関連の輸送業務及び産業廃棄物の収集運搬を請け負う協力会社として事業を推進しております。搬入先の東港金属が都心にある産業廃棄物の中間処理場ですので、お客様の収集希望時間も多様なため、24 時間の対応も可能としております。

「安全第一、確実に運ぶこと」をモットーに、過重、過載の無いよう、そして作業時間の無理が無いように運行管理をしており、また研修会、朝礼等でも徹底指導しております。

震災直後は収集運搬した廃棄物の放射線量を心配しましたが、東港金属の受け入れ基準を守って運んでおります。

東京都から産廃プロフェッショナルとして認定をいただいている意義を常に心がけ、更に皆様のお役に立つ会社として事業を進めて参ります。

会社概要

社 名 トライマテリアル株式会社
代 表 者 代表取締役社長 山本 兼嗣
設 立 2006 年（平成 18 年）1 月
資 本 金 1,000 万円
従業員数 21 名（2010 年 5 月末日現在）
年 商 約 2.6 億円（2010 年 12 月期）
事 務 所 本社（東京都港区芝 2-7-2 芝園ビル 4 階）
本社営業所（東京都大田区京浜島 2-20-4）
<http://www.trimaterial.co.jp/>
主な取引先 東港金属株式会社

事業内容

- * 鉄鋼、ステンレス、プラスチック、アルミニウム、銅等非鉄金属製品及びスクラップの加工処理並びに売買
- * 産業廃棄物及び一般廃棄物の収集運搬業
- * 廃プラスチックのリサイクル事業
- * 一般貨物自動車運送事業
- * 貨物運送取扱事業
- * 軽油及びガソリン販売業
- * 労働者派遣法に基づく特定労働者派遣事業



沿 革

2006年(平成18年) 1月	東京都中央区に一般貨物自動車運送事業、産業廃棄物収集運搬業及び特定労働者派遣事業を目的として設立 東京都大田区京浜島に東京営業所を設立
3月	特定労働者派遣事業許可
6月	一般貨物自動車運送事業許可
7月	各地の産業廃棄物収集運搬業許可取得開始
2008年(平成20年) 3月	東京都港区に本社移転
2009年(平成21年) 7月	ISO 14001 本社事務所で認証取得（東港金属株式会社と合同認証）
2010年(平成22年) 2月	東京都の優良性基準適合認定制度で「産廃プロフェッショナル」の認定取得

東京都の優良性基準適合認定制度で

「産廃プロフェッショナル」の認定を受けました。

東京都の優良性基準適合認定制度とは、平成 21 年 10 月に都が全国で初めて創設した、産業廃棄物処理業者の第三者評価制度。産業廃棄物処理業者の任意の申請に基づき、適正処理、資源化及び環境に与える負荷の少ない取組を行っている優良な業者を、第三者評価機関として都が指定した（財）東京都環境整備公社が評価・認定する制度です。

今回、トライマテリアルは 2010 年 02 月 10 日付で、収集運搬の区分で、トップランナー的業者であるとして「産廃プロフェッショナル」の認定を受けました。



Topics

年間 MVP 表彰

ベストドライバー



年間を通して、安全運転、効率を考えた運行に努め当社の業績向上に大きく貢献しました。

櫻井 三保

東港金属株式会社と同様に、月間、年間の MVP ベストドライバーを選出し表彰しております。

社員資格一覧表

2011 年 9 月 15 日現在

資格区分	人数	資格区分	人数
特管産廃の許可申請に関する講習会	2	車両系建設機械	10
床上操作クレーン (5t 未満)	2	救命技能認定書	1
産業廃棄物処理業者講習	1	玉掛	13
牽引	6	アーク溶接の業務	1
運行管理資格者 (含 補助者、指導講習)	8	小型移動式クレーン	9
高所作業車	1	整備管理者選任前研修	1
安全衛生推進者養成講習	1	移動式クレーン	1
ガス溶接	1	不整地運搬車運転技能講習	1
大型自動車	18	掘削といしの取替 (自由)	1
低圧電気取扱	1	職長教育	1
大型特殊免許	3	安全管理者	1
特定科学物質等作業主任者技能講習	1	教育トレーナー	1
中型自動車	19	衛生管理者	1
石綿使用建築物解体業務特別教育	1	甲種防火管理者	1
フォークリフト	15	ISO14001 内部監査	1
危険別取り扱い者	2	セーフティ・インストラクター	1

産業廃棄物収集可能エリア (東港金属株式会社又はトライマテリアル)

平成23年11月1日時点

	産業廃棄物													特別管理産業廃棄物			
	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	ゴムくず	金属くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類	廃酸 PH 2.0 以下	廃アルカリ PH 12.5 以上	廃石綿等	廃油 (揮発油類、灯油類及び軽油類に限る)
東京都	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
神奈川県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
埼玉県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
千葉県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
群馬県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
栃木県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
茨城県	○	○			○	○	○	○			○	○	○				
長野県	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				
岩手県					○	○	○	○			○	○	○				
福島県					○	○	○	○			○	○	○				
静岡県					○		○				○	○	○				



法的小よびその他の要求事項



環境及び情報セキュリティの法規制で当社及びトライマテリアル株式会社に係るものは以下の通りです。
第 66 期で行政より指導・勧告を受けたものではありませんでした。

環境関連

環 境 側 面		法、条例、等	要求事項(当社該当主要項目のみ)	主な該当施設等	主な該当部署	必用資格
自動車運行	運搬車輛・ 自家用車	道路交通法	①自動車免許、速度制限、積載制限	運搬車輛・ 自家用車	運輸部門 営業部門	大型・ 普通免許
		NOx・PM法	①規制対応車種 ②PM減少装置の取り付け	—	運輸部門	—
[業] *廃棄物の受入 *収集運搬及び処分業	金属屑、廃プラ類、 ガラス・コンクリート・ 陶磁器屑、繊維屑、 木屑、紙屑、他	廃棄物処理法	①廃棄物再生業／廃棄物の収集運搬及び処分業の許可 ②廃棄物の保管施設への掲示板の設置 ③委託基準の順守 ④マニフェストの使用及び返却等の管理 ⑤廃棄物処理責任者の設置 ⑥二社契約許可番号、事業の範囲、有効期限、 処理能力、重量、単価等の記載 ⑦産廃最終処分業者の処分場視察 ⑧環境に不可を与えない施設の維持管理 ⑨資源化を推進し、最終処分量の削減 ⑩地域住民との協調	業として 被処理物の 受け入れ	全体	収集運搬業 中間処理業 古物商
[事業者] 廃棄物の排出	産業廃棄物の排出		業務全般 からの排出			
[事業者] 廃家電等電気製品の排出	特定家庭用機器廃棄物、 パソコン他	家電リサイクル法 改正リサイクル法			事務部門	—
トラックスケールの使用	トラックスケール	計量法	トラックスケール台貫計量誤差検定 1回/2年 検査	トラックスケール (20t・40t・50t)	生産部門	—
火災の発生	指定可燃物	消防法	指定可燃物貯蔵量調査	工場棟及び 工場内設備	生産部門	—
フロン類の回収	業務用空調機・ 業務用冷蔵庫から フロン回収	フロン回収破壊法	東京都知事による登録	フロン回収 設備等	生産部門 営業部門	第一種フロン類 回収業者登録
		改正フロン回収破壊法	適正回収、行程管理制度、引取証明書の交付			
材料およびエネルギーの 使用を物品の購入時に考慮	物品の購入	グリーン購入法	グリーン調達を推進し、環境に与える負荷を軽減する	事務所	事務部門	—

情報セキュリティ関連

関連分野	法令の名称	主な参考条項
情報保護に関する法令	日本国憲法 個人情報の保護に関する法律	第21条 集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。 2 検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵してはならない。 全般
コンピュータ犯罪に関する法令	刑法 不正アクセス行為の禁止に関する法律 労働基準法 労働者派遣法	第7条の2 電磁的記録の定義 第157条第1項 電磁的公正証書原本不実記録罪 第158条第1項 不実記録電磁的公正証書原本共用罪 第161条の2 電磁的記録不正作出・不正作出電磁的記録供用罪 第234条の2 電子計算機損壊等業務妨害罪 第246条の2 電子計算機使用詐欺罪 第258条 公用電磁記録毀棄罪 第259条 私人電磁記録毀棄罪 全般 第91条 制裁規定の制限 第24条の4 秘密を守る義務
知的財産権に関する法令	著作権法 特許法 意匠法 不正競争防止法 知的財産基本法	第2条 定義 第10条 著作物の例示 第12条の2 データベースの著作物 第20条 同一性保持権 第47条の2 プログラムの著作物の複製物の所有者による複製等 第76条の2 創作年月日の登録 第113条 侵害とみなす行為 全般 全般 全般 第8条 事業者の責務
その他	特定電子メールの送信の適正化等に関する法律 外国為替及び外国貿易法	全般 全般



ガイドライン対照表

環境報告書ガイドライン 2007 年版における項目

掲載ページ

【基礎的情報 :BI】		
BI-1	経営責任者の緒言	1
BI-2-1	報告に当たっての基本的要件（対象組織・期間・分野）	2
BI-2-2	報告対象組織の範囲と環境負荷の捕捉状況	2
BI-3	事業の概況（経営指標を含む）	3,4
BI-4-1	主要な指標等の一覧	3,6,7,8,21
BI-4-2	事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	6,7,8
BI-5	事業活動のマテリアルバランス（インプット、内部循環、アウトプット）	6
【マネジメント・パフォーマンス指標 : MPI】		
MP-1-1	事業活動における環境配慮の方針	5
MP-1-2	環境マネジメントシステムの状況	9,10
MP-2	環境に関する規制の遵守状況	21
MP-3	環境会計情報	—
MP-4	環境に配慮した投融資の状況	11,12,13,14
MP-5	サプライチェーンマネジメント等の状況	9,10,19
MP-6	グリーン購入・調達の状況	16
MP-7	環境に配慮した新技術、DfE 等の研究開発の状況	11,12,13,14
MP-8	環境に配慮した輸送に関する状況	6,7,8,19
MP-9	生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—
MP-10	環境コミュニケーションの状況	18,19
MP-11	環境に関する社会貢献活動の状況	1,17
MP-12	環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	11,12,13
【オペレーション・パフォーマンス指標 : OPI】		
OP-1	総エネルギー投入量及びその低減対策	6,7,8
OP-2	総物質投入量及びその低減対策	6,7,8
OP-3	水資源投入量及びその低減対策	6,8
OP-4	事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	6
OP-5	総生産品生産量又は総商品販売量	3,6
OP-6	温室効果ガスの排出量及びその低減対策	6,7,8
OP-7	大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	6,7,8,15,16
OP-8	化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	6,15
OP-9	廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	3,6,7,8
OP-10	総排水量及びその低減対策	6,8
【環境効率指標 : EEI】		
	環境配慮と経営との関連状況	1,5,6,7,8,9,11,12,13,15,16,17
【社会パフォーマンス指標 : SPI】		
	社会的取組の状況	1,17

